



Japan Society of Internship
and Work Integrated Learning

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2014 年度 NO.2

目次

- ・ 第 16 回大会準備報告
- ・ 理事会報告
- ・ 年報編集委員会報告
- ・ 広報委員会報告
- ・ 企画研究 WG 報告
- ・ 楨本記念賞 WG 報告
- ・ 支部活動報告
(北海道支部、関東支部、関西支部、九州支部)
- ・ 2015 年度高良記念研究助成募集について
- ・ 選挙管理委員会からのお知らせ
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 会員情報

第 16 回大会準備報告

第 16 回大会は、テーマ「地域協働・産学連携—関西のかたち」のもと、2015 年 9 月 12 日（土）・13 日（日）に、近畿大学東大阪キャンパス（東大阪市）で開催致します。

初日の午前には、恒例の高良記念助成の発表を行います。

初日の午後は、関西らしさを打ち出します。関西は、関東に次ぐ大学の集積地です。例えば、2013 年度の関西の学生数シェア（文部科学省調べ）は人口シェアの 1.25 倍で、関東の 1.30 倍に次ぐ高さです。経済力を加味して、学生数シェアと県内総生産シェアの比率をみると、関西は 1.31 倍と、関東の 1.14 倍を大きく上回ります。関西では、経済力が低下している割に学生数が多いという状況下、大学コンソーシアムなど大学間連携の動きが非常に盛んです。単位互換だけでなく、インターンシップでも独自のノウハウを積み重ねています。そこで、午後の基調報告会に、関西を代表する有力な 3 大学コンソーシアム（京都、大阪、南大阪地域）のインターンシップ専門家をお招きし、大学間連携の意欲的な取組みについて語って頂きます。また、大学生協（阪神事業連合など）によるインターンシップを補完する取組み（中四国の国公立大学が主な対象）についても報告をお願いしています。

初日夕方のシンポジウム（非会員にも公開）では、地域連携に目を転じ、関西のうち大阪府・兵庫県・和歌山県に絞って、意欲的な実践事例を語りあって頂きます。受入れ担当者等によるパネルディスカッションを通じて、関西らしい実践教育の実情と今後の発展性について議論して頂く予定です。

二日目午前につきましては、自由研究発表と致します。会員の皆様におかれましては、奮ってご参加頂きますよう、お願い申し上げます。近く、第 16 回大会のウェブサイトを立ち上げますので、研究発表のお申し込み、大会参加のお申込み等は、大会ウェブサイトをご活用ください。

<http://www.eco.kindai.ac.jp/abiko/jsi2015.htm>

また、2 日目午後には、お楽しみ企画として、2

種類のエクスカージョンツアーを計画しております。1 つ目は、大会会場から歩いて 15 分程度のところにある司馬遼太郎記念館へのツアーです。近鉄奈良線の最寄り駅まで歩いて 5 分程度ですので、お帰りも便利です。もう一つは、近鉄電車に乗って奈良市内の「ならまち」までご案内し、外国人に人気の和菓子店でお手前などを体験して頂くものです。近鉄奈良駅から JR 京都駅まで特急で約 35 分ですので、新幹線に乗られる方にも便利です。いずれかへの参加ご希望の方は、事前にウェブサイトを通じてお申込み下さい。

（第 16 回大会実行委員長 安孫子 勇一・近畿大学）

理事会報告

2014 年度第 3 回理事会（11/28@九州大学箱崎キャンパス）

(1)入退会申請、会員種別の変更について

入会 3 件（個人会員 2 件、学生会員 1 件）、退会 1 件（個人会員）、会員種別の変更 1 件（個人会員→学生会員）について、すべて了承された。

(2)2014 年度高良記念研究助成審査委員会委員の交代について

吉本会長より、慣例に従い 5 年間担当した眞鍋委員が退任し、代わって九州支部から引き続き委員を選出することに確認があり、九州支部から新委員を選出することが了承された。

(3)2015-2016 年度理事及び会長選挙について

吉本会長より、現行理事選挙規程に残っている不備の修正を行いたい旨が諮られたほか、次期役員選出にかかる会則・規程の確認、今後のスケジュールの確認も行われ、すべて了承された。また、選挙管理委員会について、和田佳子会員を委員長に、牛山佳菜代会員と廣瀬幸弘会員を委員としたい旨提案があり、了承された。

(4)第 16 回大会について

安孫子第 16 回大会実行委員長より、近畿大学所属の会員を中心とした当面の準備体制や大会のテーマ（案）等、現在の進捗状況について説明があった。

また、大会の日程については、2015年9月12日（土）・13日（日）とすることが正式に決まった。

(5)第15回大会について

眞鍋第15回大会実行委員長より、大会の参加状況のほか、大会運営全体をとおしての総括について説明があった。特に、自由研究発表の申し込み時に発生した問題に対しては、吉本会長より、大会発表のルールについて企画研究WGで検討してほしい旨、依頼があった。

(6)企画研究WG

亀野委員長より、①実践を学術研究に結びつけていくこと、②WACEとの関係も含めた国際化対応をすすめていくこと、の二つを同WGのミッションとしていることをふまえ、①については、第一に11月30日に北海道支部内で論文作成ワークショップを行うこと、第二に第15回大会の自由研究発表の司会者に、担当した発表者のうち年報第18号への投稿を促したい対象者の推薦依頼を行ったことについて報告があった。また②については、来夏のWACE世界大会に向けて会員の中から発表者を出せるよう、本学会のWACE法人会員枠の活用等、検討を進めたい旨報告があり、吉本会長からの提案等、協議がなされた。

(7)事務局報告

長尾事務局長より、九州大学「中核的専門人材のためのグローバル・コンソーシアム」国際セミナー『第三段階教育における質保証と学位・資格枠組み—ガラパゴス化とグローバルゼーション—』への後援を行った旨、報告があった。

また、事務局業務の一部外部委託に関する検討状況について、報告があった。

(8)各種委員会・ワーキンググループ報告

各委員長、支部長等より説明があった。

長尾事務局長より、理事選挙ならびに会長選挙の投開票スケジュールについては、選挙管理委員会内ならびに事務局との間での日程調整ののちスケジュールを確定することとし、その詳細については選挙管理委員会に一任することで了承された。

(4)第16回大会について

安孫子第16回大会実行委員長より、大会のテーマを「地域協働・産学連携—関西のかたち」とすることや、基調報告会「関西における大学間連携のかたち」を開催すること等、現在の準備状況について報告があった。また今大会より、自由論題発表者の資格要件を明確化することについて検討中である旨説明があり、これをうけ亀野企画研究WG委員長より、発表者の資格要件や発表可能件数について案が示され、審議の結果、第16回大会では複数名による発表の場合の発表枠は最大2枠までとする、複数の発表に共同研究者として名前があることは妨げないが口頭発表者として実際に登壇して発表できるのは大会中1つだけとすること等が決定した。

(5)企画研究WG

亀野委員長より、8月のWACE世界大会に対する学会としての会員支援について、本理事会の前に行われたWGでの協議結果に基づき報告があり、あわせて宮川理事（WACE日本事務所）ならびに松高理事（京都産業大学）からも同大会について情報提供があった。学会としては会員に対して、同大会への参加登録方法等の情報提供を行うこととし、宮川理事・松高理事から事務局に適宜情報提供がなされることとなった。

(6)各種委員会・ワーキンググループ報告

各委員長、支部長等より説明があった。

（事務局）

2014年度第4回理事会（2/28@九州大学東京オフィス）

(1)入退会申請について

入会4件（個人会員3件、法人・団体会員1件）、退会2件（個人会員）について、審議がなされた結果、法人・団体会員1件の入会申請について、審議に付された資料からだけでは承認の可否を判断できないという意見が出され、協議の結果、同事案についてはいったん審査保留として当該団体に審査の判断材料となる追加資料の提出を求め、資料の提出後にあらためて書面回議形式での入会審査を行うこととした。（後日、書面理事会において、3月末に該当法人・団体会員の承認された）。残りの案件についてはすべて了承された。

(2)2015年度高良記念研究助成の募集について

長尾事務局長より、2015年度高良記念研究助成の募集要項等について資料に基づき説明があり、締切当日における応募書類の扱いについては、これまでの「必着」から「消印有効」に変更することが了承された。

(3)2015-2016年度理事及び会長選挙について

年報編集委員会報告

年報編集委員会では、編集委員、査読をお願いした会員諸氏、第15回大会実行委員会の協力を得て、現在、年報第18号の編集作業を進めております。

本年1月20日を締切として第18号への投稿を募集しましたが、期日までに研究論文（論文及び研究ノート）の部へは、論文として7編、研究ノートとして2編の計9編の意欲的な投稿が寄せられました。また、資料の部へも投稿が寄せられております。

その後、編集委員及び編集委員以外の会員の皆さまに査読をお願いし、それをもとに3月29日に第1回の編集委員会を開催いたしました。その結果、論文へ投稿があった7編のうち3編、研究ノートへの投稿があった2編のうち1編については、「採択に至るには加筆・修正が必要である」とし、修正結果を再査読することになりました。

今後は、6月6日に第2回編集委員会を開催し、投稿者の修正原稿を審査し、掲載の可否を決定いたします。また、資料の部についても掲載するものを決定する予定です。

その後、最終原稿の提出、印刷・製本を経て、本年11月頃に第18号を会員の皆さまにお届けできるよう作業を進めてまいります。

(年報編集委員会副委員長 亀野 淳)

広報委員会報告

書籍・研究業績のウェブ掲載について

会員の皆様の研究業績や書籍刊行をウェブサイトでご紹介しております。インターンシップや職業統合的学習に関する研究活動(著書・論文紹介、研究助成金の申請、共同研究の実施など)がございましたら、広報委員会宛にご連絡ください。

また、書籍・研究業績だけでなく、会員の皆様にとって有益な情報がございましたら、広報委員会にご連絡ください。インターンシップに関するイベント等についても積極的にウェブサイトやメルマガで発信していきたいと考えております。最終的な掲載の可否は広報委員会において検討いたしますが、これら関連情報の発信を希望される方は、広報委員会宛にお気軽にお問い合わせ下さい。

メルマガ配信先アドレスの登録について

学会ウェブサイトに掲載された新着情報や会員への広報としてメルマガ配信を行っております。新入会員の方、また新年度にメールアドレスが変わられた方は、配信希望アドレスを記載の上、広報委員会(jsi.prc@gmail.com)までご連絡ください。

(広報委員会委員長 石田 宏之)

企画研究 WG 報告

2014年度における本WGの大きな任務は、①日々の実践を学術研究に結びつけていくための方策の検討、②本学会の国際的な対応の2点です。これらに対応するため以下を実施しました。

『実践を学術研究・論文作成に結びつけるために』の開催

2014年11月30日(日)に北海道大学において年報編集委員会、北海道支部との共催で『実践を学術研究・論文作成に結びつけるために』と題したセミナーを以下のとおり開催いたしました。会員が各自の実践活動を相対化して観察する研究活動を行い、その観察を研究論文としてまとめるために、今どのような課題があるのか、報告とそれらをもとにディスカッションを行いました。

○報告

- ・古田克利会員(関西外国語大学)「実践感覚をいかに論文に反映させるか」
- ・亀野淳会員(北海道大学)「日々の実践を学術研究に結びつけるための視点」
- ・亀野淳会員、古田克利会員「『インターンシップ研

究年報』への投稿と査読の実際」

○ディスカッション

- ・投稿希望者からの質問に基づきディスカッション

WACE 世界大会(京都産業大学)の開催への対応

インターンシップやWIL(Work Integrated Learning: 職業統合的学習)の国際的組織であるWACE(the World Association for Cooperative & Work-Integrated Education)の2年に1回開催される世界大会が日本で初めて、来たる8月19日(水)から21日(金)の予定で京都産業大学において開催されます。会員各位の研究成果を海外に発信することや海外の実践、研究を学ぶことは、今後の学会員の発展・向上に資することから、本学会としても後援をいたしました。会員の皆さまの積極的な参加をお願いいたします。詳細は以下を参照願います。
<http://www.kyoto-su.ac.jp/path/wace/overview/index.html>

全国大会における発表資格の明確化

今年度の全国大会は9月12日~13日に近畿大学で開催される予定ですが、自由論題の発表資格者を明確化するため同WGにおいて検討され、2月28日の第4回理事会において承認されました。詳細は第16回大会の発表申込を参照願います。

(企画研究WG委員長 亀野 淳)

楨本記念賞 WG 報告

楨本記念賞の選定基準が最終確認される

2015年2月28日、楨本記念賞WG委員会が九州大学東京オフィスで開催されました(出席者:安孫子、太田、田中、富田、吉本、和田)。今回は、「昨年8月のWGで確認した選定評価基準(日本インターンシップ学会 News Letter2014年度 No.1 参照)について最終的に確認を行うとともに、以下の事項についても協議、加味することに致しました。

- ① 指導生の育成目標が明確になっているか
- ② インターンシップ運営上の課題が明確になり、解決に向けて取組みが行われているか
- ③ 「秀逸な事例」を他校に取り入れることができるか

WGでは、これら最終的に確認された選定基準をもとに、報告された秀逸な事例について5月の理事会で意見交換し、8月の理事会までに候補事例を固めることに致しました。最終的な選定は、理事ならびに支部の役員約30人で投票し、結果を9月の学会大会で発表することになります。

(楨本記念賞WG委員長 田中 宣秀)

支部活動報告 北海道支部

総会・第1回研究会を開催しました

2015年3月24日(火)に2014年度の北海道支部総会及び第1回研究会を札幌国際大学経済センターキャンパスにて開催いたしました。年度末の繁忙期にもかかわらず、10名の会員が出席されました。

支部総会では、2013年度の活動報告及び決算、2014年度の活動方針および予算が承認され、一部役員の改選が行われました。また、支部総会の開催時期にあわせて2015年度活動方針・予算についても審議を行い、承認されました。

北海道支部では、会員の増加や他団体との連携による活動の活性化が急務となっています。インターンシップがあらゆる教育機関・組織に広がるとともに、より普遍的なものになる中で、学会のプレゼンスを高めることが支部活動のポイントになると考えられます。

総会に引き続き実施した研究会では、会員2名から研究発表がありました。発表者とタイトルは以下の通りです。

- ①「大学職員におけるインターンシップ推進専門人材を育成するための調査研究について」
齋藤麻美世会員(北海道武蔵女子短期大学)
- ②「中小企業における雇用のミスマッチに関する一考察」
徳井美智代会員(北海道大学)

どちらの発表もインターンシップを支える環境整備のための研究で、インターンシップの効果を発揮するために必要な教職員・受入企業のあり方を議論いたしました。今後も支部ではあらゆる視点からインターンシップの充実を図る研究を支援して参ります。

また支部では2015年5月31日(日)に第2回研究会を開催し、特徴あるインターンシップを実施する中小企業の社長2名をお招きし、シンポジウム・ディスカッションを実施する予定です。

(北海道支部事務局・広報委員 小林 純)

関東支部

関東支部2014年度第2回研究会を開催

関東支部では、2月21日、工学院大学新宿キャンパスにおいて、2014年度第2回研究会を開催いたしました。今回の研究会では、まず、長期インターンシップの可能性を検討するための手がかりを得るために、玉川大学大学院教育学専攻主任 坂野慎二会員より、「教職大学院における長期の教育実習を巡って」と題する基調講演をいただきました。

次に、この基調講演を受けて、「長期インターンシップの可能性を探る」と題したシンポジウムを開催いたしました。坂野会員に加え、パネリストとしてご登壇いただいた小宮恭子氏(大田区立志茂田小学校校長)、数住伸一会員(山梨学院大学教授)、千々

岩朋子氏(ANAインターコンチネンタルホテル東京人材開発部長)からは、それぞれ、人材育成・教育の現場の活気にあふれる実態が紹介され、フロアと一体となった貴重な学びの機会となりました。

関東支部監修書籍の発刊について

学会ウェブサイトにおいてご案内しておりますとおり、関東支部では、この春『インターンシップ入門 就活力・仕事力を身につける』を玉川大学出版部より発刊いたしました。

お蔭様で、ご好評を得ることができ、現在、折戸晴雄支部長を中心に、玉川大学出版部より、第2弾となる新たな書籍の発刊を計画しております。

(関東支部事務局・広報担当 山口 圭介)

関西支部

関西支部活動報告

関西支部は、2015年2月6日に支部運営委員会を開きました。本年9月12~13日に近畿大学で開催される第16回大会について、大会開催校から方針説明がありました。これを受けて、建設的な議論が行われました。

また、2015年8月19~21日に京都産業大学で開催されるWACE(the World Association for Cooperative & Work-Integrated Education)第19回世界大会を、支部として支援する方策についても議論しました。支部代表として大会に参加して貰う関係者を講師とする支部研究会を12月頃に開催し、大会の模様を発表して貰っては、という提案がありました。情報共有のための良い方策だという意見でまとまりました。

さらに、支部運営委員の一部交代も認められました。現行の運営委員は、4月から本学会ホームページに掲載されています。

(関西支部支部長 安孫子 勇一)

九州支部

九州支部第14回研究会を開催

2015年3月27日に「効果的なインターンシップを追求する」というテーマのもと、第14回研究会を福岡商工会議所において開催いたしました。会員を始め、大学や企業のインターンシップ関係者ら55名の参加いただきました。はじめに、支部長の吉本圭一会員から本研究会の問題提起がなされ、高橋康徳氏(株式会社カウテレビジョン・代表取締役社長)から企業サイドの事例として、「インターンシップ終了後も続く関係作りー小さな会社の社会貢献と人材育成ー」と題した基調講演がなされました。社長自らがインターンシップを社会貢献の一つとしてとらえ、本気で取り組むことで、社員の人材育成に大きな影響を与えている事例が報告されました。高橋氏からはインターンシップを実施する上での企業のス

ダンスについて、「インターンの定義が重要」、「大人として接する」、「目先の利益にとらわれない」という3つのポイントが提言されました。

次に、大学サイドから事例発表①としては、和栗百恵氏（福岡女子大学）から「学びを生み出し、深める『ふりかえり』：国内外体験学習の実践から」というテーマで、「クリティカル・リフレクション（深いふりかえり）」は、学びを生み出し、深め、学生が自らクリティカル・リフレクションできるようになるためには、教員がクリティカル・リフレクションを支援することが大切」という話題提供がなされました。

事例発表②としては、宮本知加子氏（福岡工業大学）から「中長期実践型インターンシップの取り組み」というテーマで、志向力、共働力、解決力、実践力の「4つの力」育成によるキャリア形成支援について、就業力育成プログラムの事例を中心に報告が行われました。

事例発表③としては、永田公彦氏（北九州市立大学）から「海外インターンシップの展開事例と効果」について、2年間の取り組み事例についての報告がなされました。海外インターンシップの効果として、「グローバル人材としてのマインドセット・基礎力・教養の獲得」を学生が身に付けている点が報告されました。

最後に吉本会員からまとめとして、ドイツのデュアル大学の事例をもとに、密度の濃い職場体験をさせるためには、日本的文脈の考慮しながら海外インターンシップを実施することへの課題や大学でのグッドプラクティスをさらに研究会で充実して欲しいことが示されました。約半数の参加者が企業関係者ということもあり、企業と大学の双方が人材育成に寄与する効果的なインターンシップを構築するためには、担当者と学生がどのように関わり、どのような能力を育成していくのか、様々な取り組みを整理しながら、報告者とフロアとの間で熱心に議論が展開され、盛会のうちに研究会を終えることができました。

（九州支部・広報委員 岡本 信弘）

2015 年度高良記念研究助成募集について

「高良記念研究助成」制度は、高良和武名誉会長から学会にご寄付いただいた基金をもとに、2007年度よりインターンシップに係る研究・実践活動の発展・普及のため、特に若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進を図ることを目的として、優れた研究課題へ研究助成を行うものです。

この度、2015年度の研究助成の募集を行いますので、会員の皆様にはぜひご応募いただきますようお願いいたします。募集要項、申請書式等、申請に係る書類は本ニュースレターに同封しております。学会ウェブサイトでも入手可能です。

申込締切り後、採否を審査し、8月の理事会で決

定し、研究助成対象者は大会の席上で発表する予定です。助成期間は1年、研究成果は次年度の大会にて発表いただき、さらに研究年報にて報告を行っていただきます。国内外における多様な視点からのインターンシップ研究、その実践活動の展開に関する研究など幅広い研究についてのご応募をお待ちしております。

※申込締切：2015年6月30日(火)当日消印有効

（高良記念研究助成審査委員会）

選挙管理委員会からのお知らせ

2015・2016年度選挙のお知らせ

2015・2016年度の理事選出にあたり、理事会より選挙管理委員会委員として牛山佳菜代会員、廣瀬幸弘会員、和田佳子会員の3名が委嘱され、選挙管理委員長に和田佳子が選任されました。郵送選挙実施の際には、212名の選挙人から113通の投票があり、投票率は53.3%と過去2回を大きく上回る高投票率となり、会員各位のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。5月10日に札幌大谷大学和田研究室にて、牛山委員と和田の2名が厳正なる開封・開票作業を行いましたのでここにご報告申し上げます。

現在、該当する新理事候補に承諾確認をしているところでございます。15名の新理事候補が確定し次第、新理事候補宛てに会長選の選挙投票用紙を送付いたします。関係各位には、会長選挙運営に引き続きご協力くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。来る6月20日に牛山委員の所属先である目白大学において開票作業を行い、会長を選出いたします。委員一同、厳正なる選挙を執り行うよう責任をもって任務にあたる所存です。

（選挙管理委員会委員長 和田 佳子）

事務局からのお知らせ

会員情報変更の連絡について

4月以降に新天地で活動を開始された会員も多いためと存じます。同封の「会員情報調査票」の確認をお願いいたします。所属・住所等が変わりましたら、速やかに事務局宛てにお届けください。連絡先が不明になりますと、年報、ニュースレター、大会案内などの会員サービスが受けられなくなりますので、ご注意ください。

会費納入のお願い

本学会は2011年度より事業年度及び会計年度が7月から翌年6月までに変更になっております。ついては、2015年度会費については、7月以降に別途納入依頼をお送りさせていただきます。

なお、2014年度の会費未納の方は、郵便振替用紙

かゆうちょ銀行からの振込(ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は手数料が無料です)で、下記振込先までお送り下さいますようお願いいたします。銀行振込でも受け付けております。

会費納入先

【郵便振替】

口座番号 02750-1-108419

加入者名 日本インターンシップ学会

【ゆうちょ銀行】

店番 279 (当座) 108419

【銀行振込】

山陰合同銀行 湖山出張所 (普通)3742993

受取人名 日本インターンシップ学会

(電信振込の場合は、「ニホンインターンシップガクカイ」と入力下さい。)

(事務局)

日本インターンシップ学会 News Letter 2014 No.2

平成 27 年 5 月 25 日発行

発行 日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集 日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 石田 宏之

印刷 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 長尾 博暢

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南 4 丁目 101

鳥取大学 大学教育支援機構 キャリアセンター内

E-mail jsi-sec@js-internship.jp

電話 0857-31-5191 (事務局長直通) FAX 0857-31-5559 (キャリアセンター共通)

Website <http://www.js-internship.jp/>